

【生きとし生けるもの】

全てが天上天下唯我独尊

合掌

今年は8月の下旬から少しずつ涼しくなり、気温も例年に比べて本当に涼しい23度まで下がったこともありましたね。しかし9月に入り、またまた急に気温が上昇、38度という残暑に見舞われ、富山県はなんと、全国一、気温が高い県になってしまいました。そんな中、8月の29日から9月の13日までの15日間、この真成寺において『日蓮宗布教院』が開設されました。

さすがは皆お坊さんです。自分一人ではないというのを、しっかりと自覚して行動していました。私はそんな皆さんから仏様のお姿を垣間見た思いです。

お釈迦様は『天上天下唯我独尊』

てんじょうてんがゆいがどくせん

という言葉を仰っています。皆さんも一度はこの言葉を耳にされたことがあるのではないのでしょうか？また、この言葉が持つ本当の意味をご存知でしょうか？

『天の上にも下にも、ただ私独り尊い』こうなります。これだけ聞くと、「な〜んだ、お釈迦様という人は、ただのナルシスト（自分大好き人間）なんじゃないの？」と

思う人も少なくないと思います。徳川時代の儒者は次のように言っています。「釈迦という奴は傲慢な奴じゃ。天上天下唯我独尊などと言いおつて」と。であれば、約2500年を経た現在に、この言葉を私達に言い伝えられてはいない

ことでしょうか。これはとんでもない誤認なのです。

お釈迦様の仰っておられる意味は、

「天上天下唯我独尊はお釈迦様個人のものではありません。だれでもかれでも生きとし生けるもの全てが、天上天下唯我独尊」。つまり天上天下唯我独尊を、自分において実現するのが、本当の仏道という極めて明瞭なお言葉なのです。

『自分自身が尊いという事を悟れば、命あるもの全てが尊いという事を悟る』こういう事なのです。

自分も他人も何も変わらない同じ尊い人間、また生物全て、同じ尊い命を持ち、生かされているという事を悟れば、自分の周りの全てのことに対して、自然に感謝の気持ちが湧いてくるというものです。

その意味で、今回の布教院ではまさに、受院生の仲間達から、仏様のお姿を拝見する事が出来ました。自分の事だけではない、他人の為に何かを喜んでもらう。そうする事によって、他人が生かされるのは勿論の事、同時に自分をも生かすことになるのであります。

そしてまた必ずその恩返しが自分の元に戻ってくるのであります。それが『因果応報』というものです。自分があるのは、身の回りに

いる全ての人がおられるからこそであります。お釈迦様が示された「天上天下唯我独尊」というこの言葉をもう一度深く噛み締めて、自分は勿論、他人の事でも、自分の事のように思えるそんな慈愛に満ちた心持ちになれば、争いのない充実した平和な生活を築き上げられるものと思えます。その基本が南無妙法華経であります。どうぞ皆様方の益々の御精進をお勧め申し上げて、今月の言葉とさせていただきます。

副住職 谷川 寛敬

叱られた
恩を忘れず
墓参り
なくては
ならない
ひとになれ